



三好町では、心の通う対話の町政を進めていこうと、皆さまから町政に対する意見をいただくべく対話集会「皆さまと語る会」を開催しています。こうしたなか、今年度はそれぞれの会でテーマを決めて実施。その最終回となる「皆さまと語る会」が10月11日、「学校週5日制」をテーマに教育学習センターで行われました。

今回は、語る会で皆さんからいただいた意見と町長の発言要旨、そして、皆さまの提言箱などに寄せられた提言と、それに対する三好町としての考え方を抜粋で紹介いたします。

◆開催テーマ「学校週5日制」
10月11日(土)開催 25人参加

住民 二学期制について、ほかの市町では間もなく取り入れられる見込みのようですが、三好町の教育委員会ではどのように検討を進めるのでしょうか。

町長 豊田市では今年度に入って二学期制が検討され、来年度に実施するようです。三好町でも今年度から、二学期制についての検討を進めています。

住民 教育について、自治体に裁量があるならば、三好町独自の教育方法をつくることはできないでしょうか。

町長 愛知県内の二学期制実施については、来年度より犬山市、蒲郡市および豊田市での開始が予定されています。すでに中学校のみで試行を始めているのが佐屋町です。これらの市町は愛知県下87市町村の先進地であり、三好町は、まずそういった地域の調査、研究を進めていきたいと考えています。また西加茂郡内の学校に通う子どもたちを対象とした

アンケートによると、学校が楽しくないと答えた子どもが小学校でも1割ほどいるようです。すべての子どもたちが楽しいと思って通える学校にしていかなければなりません。友達のことや勉強のことが学校生活の一番の楽しさにつながる部分ですが、学力面については、行政の立場からわたしたちも検討しなければならぬことです。そういったことも含め、前向きに取り組んでいきたいと思えます。

住民 子どもたちがお年寄りとの交流を通して学ぶものは多いので、各地域で老人との交流を含め、自主的なクラブを作ってみてはどうでしょうか。現在、そういった団体を作ったことに対する補助、援助はありますか。またそういった団体に対する会場利用料などの免除はありますか。

町長 地域でのお年寄り子どもたちの交流活動については、これまでは補助していません。例えば町のバスを使う場合、三好町に登録していただいている団体であれば、年に1回使うことができますが、あまり頻繁に利用できないのが現状です。今後子どもたちと地域で交流する場合には、具体的に提案していただき検討していきたいと思えます。

住民 ある中学校の生徒が学校に行けなくなり、保護者も勤めて家に不在で困っていた人に「ふれあい教室」を紹介したら喜んでいただけました。

町長 ふれあい教室への入室をきっかけに登校できるようになることは良いことだと思います。やはり不登校は難しい課題です。不登校の児童生徒がどのような状態であり、どのような支援を必要としているのか正しく見極

コラム column



連載第19回

アートを後世に伝える

平成元年より続けてきました彫刻フェスタに幕を下ろしました。この事業は、アートヒル三好ヶ丘の開発を担った現在の都市基盤整備公団が企画。三好町と共同で三好ヶ丘の街開きをしたとき立ち上げたものです。公団の開発が終了した平成11年に、主催が三好町単独になり今日に至りました。総彫刻数は70体。これを一つの区切りとして、今後は図録を作成し、彫刻の維持、管理に努めながら、町内外にアピールしていきたいと思っています。

さて今年の彫刻フェスタの応募者の中に、びっくりするような人の応募がありました。新聞報道されましたが「日本芸術院会員」、「日展顧問」という、とてもない肩書を持つ人です。もちろん名前が伏せての審査でした。「今年は力作が多い」と審査員の皆さんの評もあり、審査は難航。まず入賞作品3体を選び、そのうちの1体がその人の作品でした。そして、最終の第二次審査も伯仲した中、見事グランプリを獲得。さすがというか、当然という表現の方が正しいのかもしれない。

三好町では11月3日に、文化の日記念式典を開催。町政功労者と一緒に彫刻フェ

スタで入選した3人の受賞式も行いました。グランプリを受賞した野々村一男さんは、日展審査の関係で上京されていたため、ご息子が代理で受賞。その後、何としても96歳になられる作者とお会いしたいと希望を申し上げたところ、11月13日にわざわざお越しいただき、お会いすることができました。ちなみに野々村さんは、名古屋西區にお住まいです。小柄で温厚な顔立ちの野々村さんは、終始笑顔を保たれることはありませんでした。十数年前に病気で声が不自由になられ、私から一方的に、ときには筆談も含めてのひとときでした。「好々爺」的な立ち振る舞いに、尊敬の念を感じました。とても96歳には見えず、20歳ほどは若く感じられたのも、今もなお飽くなき芸術の求道者であるゆえんであろうと感じました。

受賞式後の話ですが、フェスタへの応募のきっかけは、三好町内に野々村さんの妹さんが住まれ、三好町にご息子が立ち寄られた際に、街角や公共施設にある彫刻を見て彫刻フェスタがあることを知り、今回の応募につながったそうです。普通であれば到底あり得ないことが、まさにいろいろなご縁になり、結果的に彫刻フェスタ最終回にふさわしい形で幕を下ろすことができました。

今までにご応募いただいた作家、ご協力いただきましたすべての皆さまに感謝することにも、作品の一つひとつを大切にしながら、後世に伝えなければと心に強く思いました。

三好町長
久野知英

めることが大切です。地域を通してより多くの認識を高めていくための働き掛けを、行政でしていきたいと思えます。

皆さまの提言箱

意見 町民病院は待ち時間が長く、回転が遅すぎないでしょうか。小児科と耳鼻咽喉科にも電話予約制を取り入れ、待ち時間を少なくしてほしいと思えます。(提言箱)

答え 小児科と耳鼻咽喉科は一人の医師で診療を行っています。ここは初診患者も多く、予約を取っても時間とおりに診察ができません。ため、予約制を採用していません。現在、待ち時間の調査を実施しています。これを参考に、受け付け、診察、会計、薬の受け取りがスムーズに流れるように検討して行きたいと思えます。(担当 町民病院)

意見 野良猫が、庭でふんや尿をして困っています。猫を処分するのではなく、例えば捕まえて避妊手術を行ったり、猫よけの商品を無料、もしくは低価格で役場で取り扱ったりして、町で何とか対応していただけないでしょうか。(電子メール)

答え 現在、三好町では犬猫の飼い主に対して野犬、野良猫のまん延を防ぐために避妊・去勢の手術費の補助を行っています。野良猫を対象に公費負担することはできません。猫よけの商品についても、無料、もしくは安価で取り扱うことは困難です。飼い主への飼育マナーの啓発啓もうを継続的に実施し、野良猫などの発生を抑制することも、町民の皆さん自らも対策を講じていただくようお願いいたします。(担当 環境課)

皆さまからのご提言をお待ちしています

三好町では、心の通う対話の町政を進めていこうと、町政に対する皆さまからの提言をいただくため「皆さまの提言箱」を設けています。

▶設置場所＝役場、サンネット、サンアート、町民病院、総合体育館、中央図書館

※提言は「皆さまの提言箱」のほか、下記のいずれかの方法でも受け付けています。

①電子メール…☒teigen@town.miyoshi.aichi.jp
 ②ファクス…☎(32)2165
 ③郵便…〒470-0295 三好町役場広報情報課あて(住所不要)

広報情報課 ☎(32)8357



●●●提言についてのお願い●●●

三好町では「心の通う対話の町政」を進めていこうと、町政に対する皆さまからの提言をいただくため、役場、サンネット、サンアート、町民病院、総合体育館、中央図書館の6施設に「皆さまの提言箱」を設けています。このほかにも電子メールやファクス、郵便などさまざまな方法で、多くの皆さまから提言をいただいています。

皆さまからいただいた提言は、町全体に対する提言としてとらえ、広報を通して紹介していますので、個別の回答はしません。これからも主に町民の皆さまの生活にかかわる提言を中心に掲載していきますので、皆さまの提言をお待ちしています。

なお提言をいただく際には、提言に対して責任を持っていただくためにも、ご自分の住所、氏名は必ず明記していただくようお願いいたします。(広報でのお名前公表はしません)また質問やお問い合わせは、各担当課あてをお願いいたします。